

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	老いても障害をもっても生きがいのある生活…「忘己利他」の理念を掲げている。	○ 老いても障害をもっても生きがいのある生活…「忘己利他」の理念を掲げている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	「忘己利他」の理念を掲げ、見える所(玄関、ホール、相談室等)に貼り、職員の意識づけをすると共にミーティング等で話している。	○ 運営理念に沿った活動が実践できるように、常に話し合いを持ち共有できるように努めたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族、地域、行政の代表である人達との運営推進会議等を通じ、話の中で理解が得られるように心がけている。	○ 運営理念を見やすい所に掲示し、来所される家族や地域の方々に理解されるようにしている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩時に挨拶しながら声をかけあったり、イベントのお誘いをし立ち寄ってもらったり、ボランティアに来ていただけている。	○ 日常的に気軽に出入りできる関係づくりを広げていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	常会に加入している各団体より、地域の行事、イベント等の情報、お誘いをいただき、極力、入居者が地域の方々と交流ができるように配慮しています。	○ 地域の方々の交流のなかで、外を歩いている入居者に声かけをし見守ってもらえる関係づくりをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で話し合っている。需要があれば応じていきたい。	○	運営推進会議等で話し合っている。需要があれば応じていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ミーティング等で、その時にあった問題提起をし話し合い、改善できるように努めている。	○	毎日のミーティング等で問題点を改善にむけ話し合っている。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議のなかで、事例報告を通し、話し合いをし意見を参考にしながら今後のサービスに生かせるようにしている。	○	会議のなかで、事例報告を通し、話し合いをし意見を参考にしながら今後のサービスに生かせるようにしている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族からの相談、行政的な問題等で、専門的な分野、考え方等で理解、判断できない時、説明を受けたり相談したりしている。	○	行政との連絡を蜜にしサービスの質の向上に心がけたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、必要性がなく話し合っていない。	○	今後の必要性に伴い勉強していきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「何が虐待になるのか」学び、入居者への言葉使い、態度等、関わり方を職員間で見守り注意し合えるようにし、虐待が起きない環境づくりに配慮している。	○	虐待のない環境づくりをしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に不信感、問題が起きないように十分配慮し説明を行っている。	○	納得のいかれるまで説明責任をしっかりと持ち、理解されるように努めていきたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常会話のなかで、いつでも、どんなことでも話ができるような雰囲気づくりに努めている。(相性の良い職員づくり)	○	話しやすい雰囲気づくりにつとめている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時、ほのぼのたより、金銭出納長、TEL等、でお知らせしている	○	面会時、ほのぼのたより、金銭出納長、TEL等、でお知らせしていることを継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に、目安箱をつくり声かけしている。	○	直接意見を言い合える関係性を持って生きたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等で問題提起され、話し合い、改善できるように努めている。	○	ミーティング等で問題提起され、話し合い、改善できるように努めている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	その都度、変化の対応に配慮している。	○	その都度、変化の対応に配慮している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者様と一線を引いてのコミュニケーション作りをしているので、特別ダメージはない。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常時、市・県また社会福祉協議会主催の各研修に積極的に参加している。	○ 事業所内での研修も実施していきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	一部同業者と交流している。	○ 一部に限らず、多くの同業者との交流を進めたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	自事業所のマイクロバスを利用し、気分を変えている。	○
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	現場に積極的に出向き、それぞれの状況を把握できるよう心がけている。	○ 今後、昇級試験などの実施を考えている。
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の不安、問題点、など良く話を聞き受容につとめながら、施設での生活の利点等含め安心して生活できる旨話をしている。	○ 個別ケアのなかで不安なこと、困っていること等の要望をきくようにしている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族、本人の生活歴を聞きながら、預けることへの罪悪感を感じないように話し、同じ病気の人達と穏やかに暮らしている他入居者の姿を通し、不安をなくしていただけるよう努めている。。	○ 家族の不安を解消するため、極力話し合いを持てるように努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズが優先されることが多い。	○	家族と本人の必要とする支援を見極め適切なサービス利用ができるようにしたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族よりの要望で本人が拒否の強い時、施設見学、体験入所等、他入居者との馴染める雰囲気づくりのなかでサービス利用に結びつく工夫をしている。	○	相談があった時、まず施設見学を進め環境に馴染んでいただけるように工夫をしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	病気ではあるが、人生の大先輩である本人との生活を共にしていくなかで自然に物の考え方、生き方を教えていただいている。他者に役に立っている。ことを知ってもらい自信を持って生活できるように心がけている。	○	日々の生活のなかで、自信を持って生活できるように支援していきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活していくなかで、だんだん距離感ができやすくなるので、現況を「ほのぼのだより」でお知らせしたり、イベント等のお誘いをし本人との関係をつなげている。	○	家族の思いを知り、一緒に支えていける関係を持っていきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時、生活の様子等含め現状を話しながら、一緒に本人のことを考えていけるように配慮している。	○	家族と本人の関係がより良い関係で継続できるように努めていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	おたより、TEL等通じ極力、家族とのつながりを持ち続けられるように努めている。	○	本人が大事にしている関係を継続できるように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	生活のなかでの交流、レク、イベントでの交流と関われる機会を多く持ちながら支え合える様になっている。	○	入居者同士の関わり合いの仲介をし、孤立化をなくしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	家族より、関わりを必要とする利用者がいなかった。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別ケアのなかで、希望や意向を聞き、できることを検討している。	○	個々の思いを知り、本人の意向を大事にするようにしている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常会話のなかで、回想法を利用しながら今までの生活歴や暮らし方等を把握している。	○	本人の生活歴、環境を知り、関わり方を把握している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の生活状況、身体状況等を把握し、個別ノートに書き職員間で共有しつなげている。	○	個々の現状の把握に努め、個別ノートに記入し職員間で共有している。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	個々に担当者をつけ、本人の課題を見つけ、カンファレンスをし、本人の思いを反映するようにしている。	○	本人が安心して生活できるように計画を立てたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度介護計画の見直し、評価、本人のニーズを把握、問題がある時は家族や主治医と相談し、意見を反映した計画を作成している。	○	本人の状態を把握しながらその都度最善な計画が立てられるようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ノートを利用、日々の様子を記録し、情報を共有しながら介護にあたりニーズを見つけ介護計画に生かしている。	○	日々の様子を個別ノートに記入し、情報の共有をし実践や計画の見直しに役立っている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	足に浮腫がある方が多く、普段椅子の生活なので、昼休みに畳の居室で足を投げ出し浮腫予防をしている。	○	現況に即したことを考えていきたい。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域ボランティア、小学校(福祉総合学習)との協力、連携を得ながら交流を続けている。	○	必要性に応じて地域ボランティア、民生委員、消防、教育機関等の協力しながら支援したい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在、必要性がなく話し合っていない。	○	必要性に応じて考慮していきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、必要性がなく話し合っていない。	○	必要性に応じて、地域包括支援センターとの連携をもちたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医(おいかわクリニック)との連携をはかり、利用者の体調管理、相談をできる関係築きながら適切に医療が受けられている。	○	本人が適切な医療を受けられるように支援している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	本人が適切な医療を受けられるように支援している。
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	看護職員と連携を持ちながら、健康管理や医療活用をおこなっている。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	主治医、協力病院との連携でおこなっている。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	家族、協力病院との連携を持ちながら、その都度対応できるように話し合いをもっている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	できる範囲のなかで、医療機関と連携をとり、指示を仰ぎながら介護をしていく。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	○	住み替えをする場合、他所の情報もとり、家族の意向を十分に配慮しながら行っていきたい。



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間の話合いで、言葉使い、記録の書き方等に注意している。	○ 個人情報 を軽視していない。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の支援のなかで要望を聞き取り、できることへの支援をしていくように努めています。	○ 本人の自己決定ができるように支援していきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の日課はあるが、その時の体調、個々の利用者の思いを考慮した支援が出来るようにしている。	○ 本人のペースで生活できるように支援していきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	2ヶ月に1回の割りで美容師が出張してカットをしている。個々で希望することはない。	○ 身だしなみやおしゃれができるようにしていきたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人で家事支援をおこなっている。	○ 入居者のできる人と一緒に食事の準備や片付けをしている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	酒、たばこは原則禁じていますが、個々に食べたい物、飲みたい物等は、職員と一緒に買い物をしています。	○ できる支援をしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間誘導で排泄リズムを取り、極力トイレで排泄できるように支援している。	○	極力、排泄のリズムがとれるように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	職員の人員的な問題もあり、2ユニットで交互に3/W入浴をおこなっている。	○	本人の希望に添えるようにしていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	朝、本人の体調確認をし、その時々状況により休息をいれながら生活支援をしていく。	○	本人の体調により安眠と休息のリズムをとっている。
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	できる事を中心に声かけし、他者との交流のなかで楽しみ、生活のハリを見つけるように支援している。	○	張り合いのある生活ができるように支援したい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は職員がおこなっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	行事的にドライブに行ったり、定期的、またその日の天候により、散歩、買い物等戸外に出かける機会をつくっている。	○	気分転換がはかれるように支援している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を仰ぎ、外出の機会をもうけ外食、墓参り等に行っている。	○	日常生活的な外出が多いので考慮していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、いつでもTELをかけられるように支援している。	○	本人の希望があれば、いつでもTELをかけられるように支援している。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来訪者はいつでも歓迎している。	○	来訪者はいつでも歓迎している。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は原則的にしない方針ですが、自傷行為、不潔行為をする人に関し、夜間帯に「つなぎ」や「ミトン」を装着することもある。	○	折にふれ身体拘束の行為の意味を職員全員と話し合っていきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	朝の掃除の時間等人出の少ない時、入居者の行動により鍵をかけることもある。	○	鍵をかける弊害を理解し、極力、閉塞感のない施設にしていきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常時、目配り、気配りを意識づけ、入居者の所在、様子等を把握するように努めている。	○	常時、入居者の所在、安否確認はしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	入居者本人に説明できる方は納得のなかで物品管理をしている。出来ない方は、危険がないように職員管理としている。	○	注意の必要な物品は本人の納得のいくなかで、職員管理にしている。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	どんな行動をするか、個々の状態像を見極めながら事故防止に努めている。	○	事故防止の話し合いを折りにふれしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急法や応急手当の勉強を定期的に行っている。	○	救急法や応急手当の勉強を定期的に行っている。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、防災訓練を定期的に行い防災の意識を高めている。近所にもお知らせをし参加協力をお願いしている。	○	消防署の協力を得て、防災訓練を定期的に行い防災の意識を高めている。近所にもお知らせをし参加協力をお願いしている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会時等に、生活状況の話しの中で理解してもらえるようにしている。	○	折りにふれ閉塞感からストレスをためないように話しをした
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員個々の情報収集を共有し合い、速やかに入居者の異変に気づくように日頃より話し合い対応している。	○	日々の体調変化には敏感になれるように、職員間の情報交換をしていきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ミーティングや介護のなかで、入居者の変化により主治医の所見としての薬の効能、副作用等も話し理解するようにしている。	○	その都度必要時に話し合い、理解できるように努めている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄リズムをとるためチェック表をつくり、トイレに時間誘導したり、体操をして体を動かしたり、水分、繊維質の物を多くとる等の工夫をしている。	○	便秘予防の対策は第一の課題として職員間で共有している。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアを行いチェックしている。	○	摂食障害、感染症、ご燕性肺炎予防に注意していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食分量、水分量等チェック表で確認し対応できるように考慮している	○	個々の身体状況を把握しながら、食事、水分の確保ができるようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアル作成、感染予防のため、うがい、手洗いは職員、入居者全員に義務づけている。	○	マニュアル作成、感染予防のため、うがい、手洗いは職員、入居者全員に義務づけている。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の掃除、調理器具の衛生管理に注意し、安全な食品の使用と残食はないように心がけている。	○	衛生管理には注意している。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	誰でもが自由に安心して出入りできるように、入居者の明るい声が飛びあう暖かい雰囲気づくりを心がけている。	○	職員の態度、言葉使い等に気をつけ家族的な雰囲気づくりを心がけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は広々と歩行しやすいように配慮し、廊下の壁面に手作りの作品を飾りみなさんと観賞して楽しんでいる。	○	混乱や失敗につながる不適切な物の配置はしないようにしている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った人達とおしゃべりしたり、TVを見たりするのに畳の居間を利用している。冬はその場が「こたつ」に変わり喜ばれている。	○	共有空間のなかで自分の居場所が確保されるように努めている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	本人の馴染んだものを配置し心地良くすごしている。	○	自分の部屋らしく馴染みのものを持ち込み、安心して過ごせるように配慮している。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	常備、臭いや空気のだよみがないように気をつけ、来訪者が不快感を抱かないように換気には十分気をつけている。	○	換気には十分注意していきたい。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	入居者が安全に歩行できるように廊下やトイレ、風呂場に手すりをつけている。	○	安全かつ自立を助けるための工夫を考慮していきたい。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	居室やトイレ、風呂場等に名前をはって場所が解るようにしている。	○	今後も場所や位置がわかる工夫を本人共々で考えていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭には花や野菜を植え、ウッドデッキは外気浴やレクリエーションに活用している。	○	安心して過ごせる外回り空間の使用をその都度考慮していく。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

## 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・感染、誤嚥性肺炎予防 ①うがい ②口腔ケア ③水分補給 ④便秘の解消 等  
 ・不穏行動を起こさない為に ①水分補給 ②便秘